

西諸県地域の普及活動

令和2年11月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 赤子川からの取水再開に向けた地元説明会を実施

17日、硫黄山の噴火に伴う河川の白濁等により取水できなかった赤子川について、取水の再開に向けた説明会がえびの市文化センター及び上浦自治公民館の2カ所で開催されました。

説明会では、水質の状況や水稲の試験栽培結果、水質監視・緊急取水停止システムについて、えびの市及び西諸県農林振興局から説明が行われ、地元の合意のもと取水再開が決定されました。



【説明会風景】

2) 西諸県郡市畜産販売農業組合連合会功労者表彰式が開催

19日、小林地域家畜市場において、種雄牛「義美福」の精液ストローの供給が5万本を突破したことを祝して、功労者表彰が行われ、生産者の大迫均さん（高原町）に経済連の坂下代表理事会長と小林市の宮原市長から表彰状が授与されました。



【功労者表彰】

3) 西諸県郡市畜産販売農業組合連合会設立70周年を祝い購買者に記念品を配付

19日、小林地域家畜市場において西諸県郡市畜産販売農業組合連合会設立70周年を祝い記念品の配布が行われ、小吹会長から、「特に今年はコロナ禍による枝肉価格暴落という状況の中、当市場に来場して子牛を買っていただき大変感謝している」と感謝の言葉と共に配布されました。



【記念品配付】

4) 11月期子牛郡品評会が開催

12日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催により開催されました。

19日から21日に開催される11月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た49頭が出品され、審査の結果、優等賞に10頭、尅等賞に25頭、弐等賞に14頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の竹山昭徳さん出品の「ながおか519」号（耕富士－義美福－勝平正）、2席は小林市の黒木領一さん出品の「みなみ」号（勝光喜－美徳国－忠



【優等賞首席ながおか519号】

富士)、3席は小林市の迫間紀美弘さん出品の「ゆかり」号(耕富士-安重守-糸北国)が受賞されました。受賞牛は、発育良好で、品位に富み、輪郭鮮明、体積豊か等と講評されました。

5) 宮崎県家畜防疫演習が開催

9日、宮崎県家畜防疫演習が開催されました。演習では、小林市の養鶏場において高病原性鳥インフルエンザが発生したことを想定し、小林市や県庁、県の出先機関が初動防疫における各自の役割や連携方法について改めて確認を行いました。また、今回は防疫従事者の新型コロナウイルス感染症対策にも考慮した演習となりました。

今季は既に香川県での高病原性鳥インフルエンザの発生に続き、30日には本県でも発生していることから、各農場におけるより一層の防疫対策の徹底が重要となります。

6) 種子用大豆の収穫を実施

25日、えびの市において、県内に種子として供給される大豆の収穫作業が行われました。

本年度は、梅雨の長雨による播種の遅れや台風の襲来、害虫の発生等、厳しい栽培環境でしたが、適切な栽培管理により良質な種子用大豆が生産されました。



収穫風景

7) 西諸地区農業水利総合開発事業促進協議会幹事会並びに担当者会が開催

19日、KITTO小林において 西諸地区農業水利総合開発事業促進協議会の幹事会並びに担当者会が開催されました。

会では、協議会会長の小林市宮原市長挨拶のあと、農林振興局から県営事業の実施状況、普及センターから本年度の畑かん営農推進に関する取組状況の説明を行いました。

また、南ヶ丘第一支部の山田支部長から「有機農業と畑かん」と題して、にんじん等のかん水の効果や、展示ほで実証中の短根ごぼうについての講演が行われ、参加した関係機関の興味をひく内容となっていました。



【幹事会・担当者会の様子】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(基本、重点)に関する普及活動

(地域の維持・発展をめざす集落営農のステップアップ)

1) 焼酎醸造用大麦（はるか二条）の播種を実施

24日及び26日、えびの市にある㈱西郷営農と㈱JAアグリランド田の神さあにおいて、焼酎醸造用大麦（はるか二条）の播種が行われました。

今回播種した麦は来年の5月に収穫され、地元の酒造メーカーにより麦焼酎が製造されます。

今年度産及び来年度産の2カ年に渡り醸造試験を行い、麦焼酎の適正（味や品質等）について検討を行っていきます。



【播種風景】

(にしもろ農業の明日を元気にする担い手の確保・育成)

1) アグリ★レベルアップセミナーを開催

26日、普及センターでアグリ★レベルアップセミナーを開催しました。

今回は、県内農業者の優良事例研修会とし、門川町の株式会社新門トマト農園の新門さんと都城市のベジエイト株式会社重富さんのお二人に講演をしていただきました。お二人とも、経営開始からこれまでの取組内容を中心に経営理念、生産方式、販売戦略、雇用対策、今後の展望を紹介いただきました。

会場からは、多くの質問があり、参加者の関心の高さが伺えました。



【アグリ★レベルアップセミ

2) 就農相談者に対応し、経営改善や就農に向けた助言を実施

2日、えびの市役所において、1名の就農相談に対応しました。肉用牛繁殖経営の親元就農に関する相談でした。

青年等就農計画の認定に関する要件や、新規就農の際の実務研修の必要性、認定新規就農者制度及び農業次世代人材投資事業の要件について助言しました。

※就農相談対応（面談） 1名1回

（内訳：えびの市；肉用牛繁殖1名）

3) 「認定新規就農者」の申請に向けた経営収支計画の作成を支援

4、9日、普及センターにおいて、小林市の果樹の新規就農者について、関係機関と連携し青年等就農計画及び経営収支計画の作成を支援しました。経営開始から5カ年の経営収支計画では、資金借入や償還計画を含めて検討しました。18日には、11月の認定審査会に申請するため、事前審査を行いました。

※就農相談対応（面談） 1名2回

（内訳：小林市；果樹1名）

4) 「認定新規就農者」の青年等就農計画申請書等の変更を支援

10、17、18、24日、えびの市の認定新規就農者2名（H30認定者：施設野菜等、R2認定者：肉用牛繁殖）の就農後の減価償却資産等の導入や青年等就農資金の借受け額の変更に関して、計画申請書及び収支計画の変更を、えびの市とともに支援しました。17日

は、変更した内容について事前審査を実施し、挙がった意見を参考にして、その後も修正作業を支援した結果、農業所得の確保と資金繰りの回転が図られました。来月の金融部会で、青年等就農資金の審査が行われる予定です。

※就農相談対応（面談） 2名6回

（内訳：えびの市；施設野菜等1名、肉用牛繁殖1名）

5) 第3回にしもろサップ役員会において冬期大会の開催を検討

26日、普及センターにおいて、全役員4名、県連SAP役員、事務局2市及び普及センターが参加し、第3回の役員会を行いました。県連SAPからの報告に基づく県連活動、にしもろサップの活動及び各市SAPの活動について協議しました。



中でも今回は、56名の参加報告を受けていた来月10日開催の冬期大会の内容について協議を行う予定でしたが、県内外における新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮

【第3回にしもろサップ役員

した結果、開催を断念することに至りました。大会開催は中止するものの、大会を前に準備を進めていたプロジェクト活動の実践報告は、「みんなのプロジェクト13」として冊子にとりまとめ、13年目の歴史をしっかりと刻みます。

6) 中古施設等の情報収集に関する体制づくりを検討

4日、えびの市役所において、えびの市担い手育成総合支援協議会を構成する各関係機関が連携し、情報共有の体制づくりについて協議を行いました。新規就農者の就農定着支援の一環として、施設整備に係る情報収集に取り組むこととし、調査方法や様式について検討しました。



今後は、各関係機関に周知し具体的な取組をすすめることとしています。

【会議の様子】

7) えびの市イチゴ団地に係る検討会を実施

4日、えびの市役所において、園芸振興に係る関係機関が連携し、研修機関としての認定申請について協議を行いました。農業次世代人材投資資金の〈準備型〉を活用するためには、研修機関の認定が必要となっており、研修生募集要領や研修カリキュラムについて意見交換を行いました。また、JAえびの市が実施を予定している園芸農家への今後の営農に関するアンケートについて、具体的な取組をすすめるための情報共有を行いました。

8) きりしまアグリトレセン研修希望者の研修施設案内を実施

16日、アグリトレーニングセンターにおいて、来年度の研修希望者に対して、関係機関で連携して施設案内を行いました。センター長から研修の概要等の説明があり、研修生と意見交換を行いました。

今回は移住・定住を希望する方のお試し滞在を支援している小林市地方創生課も一緒に参加しました。



【研修生との意見交換】

(技術力向上と経営安定による施設果菜類生産の強化)

1) 促成きゅうりのハウス巡回指導の実施

促成きゅうりの出荷が始まる時期となったため、19日にJAこばやしきゅうり部会のハウス巡回指導を行いました。

11月は平年よりも寒暖差が激しく定植後の管理が難しい状況でしたが、概ね順調な生育が見られました。

これから厳寒期を迎えることとなりますが、このまま病害虫の被害なく安定したきゅうり生産ができるように、支援を続けていきます。



【ハウスの巡回指導】

(次代へ繋げる”にしもろ”果樹の産地力強化)

1) JAこばやしマンゴー部会支部定例会の開催

24日、25日、27日の3日間にわたって開催され、普及センターからは花芽誘導期から出蕾期にかけての管理技術講習を行いました。各園地の状況聞き取り及び栽培管理についての質疑応答が行われました。

また、果樹産地構造改革計画の見直しに当たって産地ビジョンを策定するために、生産農家の生の声を集約するため、アンケートを実施中であり、目的の説明と回答への協力要請を行いました。

最後に開催会場となったマンゴーハウスを見学し、生育ステージや温度管理の状況など現状確認と質疑応答を行いました。



【技術管理講習の様子】



【ほ場視察の様子】

2) 第三者承継を行ったブドウ経営新規参入者を対象とした栽培勉強会の実施

25日、普及センターにおいて、ここ1～2年で第三者承継を行ったブドウ栽培新規参入者（個人3名、法人1団体）を対象にブドウ栽培に関する研修会を実施しました。

内容としては一つ一つの細かい技術の解説ではなく、“ブドウ”という植物の基本的な生理生態と永年作物であるが故の注意すべきポイント、栽培暦等に記載してある月ご

と、ステージごとの具体的な管理技術の背景（必要性や目的など）を中心に解説し、暦の中身を理解し自分の園地に応用するよう説明しました。

講習後には日頃疑問に感じていることや説明を聞いて新たに浮かんだ疑問点などの質問が上がり、有意義な研修会になったと手応えを感じました。



【研修会の様子】

（気候変動に打ち勝ち、取引先から信頼される露地野菜産地の育成）

1) にんじん（9ト）取り）での生育調査

26日、小林市千歳地区の加工用にんじんの9トン取りのほ場で、病害の発生調査を小林市、畑作園芸支場と協力して実施しました。

調査の結果、病害の発生状況について試験区と慣行区でほとんど差がなく、病害の程度も軽く生育にはほとんど影響がない状態でした。

今後は、収穫時期に注意しながら、引き続き生育状況を観察し、地域での有効性を確認します。



【小林市千歳の調査状況】

2) 畑かんマイスター巡回を実施

5日～13日にかけて、西諸管内の畑かんマイスター7名の巡回を行いました。

畑かんマイスターの作付状況や水利用状況等を聞き取りし、今後の推進活動の参考となる貴重なお話を伺うことが出来ました。周辺農家への周知・PRもあわせてお願いしました。今後も巡回活動を継続していきます。



【巡回状況】

3) ごぼう栽培講習会の開催

10日、JAこばやし野尻支所にて、ごぼう栽培講習会が開催されました。生産者7名が出席し、ごぼうの栽培で問題となっているヒョウタンゾウムシ類の防除について説明しました。

令和2年3月から5月までに、JAと共同で実施した掘り取り調査の結果を踏まえて、越冬成虫の産卵を防ぐための春期の殺虫剤の散布をポイントとして説明しました。



【講習会の様子】

4) サツマイモ基腐病等対策研修会を開催

30日、西諸県サツマイモ基腐病等対策会議（市町、JA、NOSAI、市場・酒造関係、集荷業者及び県から構成）が標記研修会を開催しました。

当研修会は、管内の生産者に基腐病に対する知見を広く周知するとともに、対策意識

を醸成する目的で開催し、生産者53名が参加しました。基腐病の症状、対策について説明を行い、参加者からは残さの分解や土壌消毒についての質問がありました。

今後も、継続的に発生状況調査、研修会を開催していきます。



【研修会の様子】

(技術と経営改善で目指す県内一のキク産地)

1) 高原町花卉部会定例会を実施

19日、高原町花卉部会定例会が高原町内で開催され、生産者4戸が参加しました。

定例会の前に各生産者のほ場を巡回し、生育状況の確認を行いました。定例会では、今月の販売状況や今後の見通しについてJAから報告があり普及センターからは、大きな問題になっている害虫のアザミウマに関する講習を行いました。

年末の需要ピークに向けて、関係機関と連携して積極的な支援を図ります。



【定例会の様子】

2 プロジェクト(基本、重点) 以外の普及活動

1) 西諸県地区女性農業者サポート協議会の役員会を開催

25日、普及センターにおいて、役員4名が参加し役員会を行いました。新型コロナの影響を考慮し、県外での研修は全て中止とし、管内の農業を学ぶことをテーマに取り組むこととしました。畑かん事業についてリーダーとして見聞を深めるため、来年1月に浜ノ瀬ダム等の現地や室内研修を行うこととなりました。

2) 野菜技術員会を開催

10日、西諸県農業改良普及センターにて、野菜技術員会を開催しました。

関係機関から23名が出席し、近年問題となっている「サツマイモ基腐病」の対策や農薬の供給に関わる情報、県野菜共進会への出品、試験研究機関への要望など多岐にわたった内容について検討を行いました。また、NOSAI宮崎西諸センターから園芸施設共済及び収入保険制度の説明も行われました。

今後も、新型コロナウイルス対策をとりながら、必要な検討を定期的に行っていく予定です。



【技術員会の様子】

3) ほうれんそう栽培講習会の開催

17、20日に、JAこばやし3支所で合計61名の生産者が参加して、加工用ほうれんそうの出荷講習会に併せて栽培講習会を開催しました。本年作は9月下旬に播種が始まり、11月にはハナバエやアブラムシの発生が確認されていたことから病害虫対策を主体に講習しました



【講習会の様子】

4) 果樹技術員会にて果樹産地構造改革計画について検討

19日に果樹技術員会が普及センターで開催され、関係機関10名が参加しました。今回は、果樹産地構造改革計画策定にかかるアンケート調査を中心に検討を行いました。また、10月に実施した香港への梨の輸出試験結果について振興局より報告がありました。現在、輸出に向けた動きはありませんが、将来にむけて輸出の可能性を調査するために今回、試験を実施しました。着荷の状態や現地サプライヤーの評価など参考になる結果得られましたので関係機関や農家と情報共有を図っていきたいと思います。

5) JAこばやしラナンキュラス生産農家圃場巡回・現地検討会が開催

27日、JAこばやしラナンキュラス生産農家7戸の圃場巡回を農家、JA、高原町役場普及センターで行いました。JAこばやし管内では10月11日から10月24日にかけて定植が行われ、現在、早い人で一番花の発蕾時期となっており、12月下旬から出荷が始まり、管内全域の出荷は年明けからとなる見込みです。

現地検討会では、互いの生育状況確認を行うとともに育苗管理方法や病害対策について情報交換を行いました。また、普及センターからは病害虫対策について講習を行いました。



【現地検討会の様子】

6) 花き技術員会にてラナンキュラスの作付調査を実施

30日、花き技術員会を普及センターで開催しました。現地検討として、小林市須木地区のラナンキュラス生産者ほ場に伺い、今年度の作付状況を調査しました。

1つのほ場に様々な品種が植えられているラナンキュラスですが、技術員が連携することでスムーズに調査を終えることができました。普及センターに戻ってからは、室内検討として各種復命や今後の活動内容について協議しました。

管内では、早いところだと12月中旬からラナンキュラスの出荷が開始する予定です。引き続き、作付調査を進めつつ支援していきます。



【定例会の様子】

7) 西諸地区畑作営農作付一斉調査（秋冬作）を実施

25日、えびの市、26日、27日に野尻町、30日に高原町において、畑かん受益地の作付状況を確認するため、関係機関(市町、JA、NOSAI、土地改良区)の協力を得ながら、一斉調査を実施しました。

調査は畑かんの導入前後で地域の営農が変化する様子を確認する目的で実施しています。

なお、各地域毎に主な作物が異なり、それぞれ地域の特徴が把握できたため、関係機関と情報共有し、畑かん利用推進に繋げていきたいと思えます。



【野尻町作付調査】

8) 畑かん施設研修を実施

10日、当普及センター職員を対象に畑かん施設研修を開催しました。

本研修は、普及担当職員が畑かん水の仕組み（配水等）に関する理解を深め、畑かん営農推進に繋げることを目的に、浜ノ瀬ダムと坂下ファームポンドで実施しました。

本研修が畑かんの施設を知ってもらい勉強の場となったことで、より一層の畑かん営農推進に繋げていきたいと思えます。



【畑かん施設研修】